令和元年度第1回幕別町都市計画審議会議事録

1. 開催日時 令和元年6月4日(火) 午後4時

2. 開催場所 幕別町役場 2-C会議室

3. 出席者 都市計画審議会委員

嶽山 信行	(学識経験者)
土屋 博樹	(学識経験者)
岡本 芳夫	(〃)
小林 美裕	(〃)
小島 智恵	(町議会議員)
小川 純文	(〃)
谷内 雅貴	(農業委員会会長)
笹原 早苗	(公募によるもの)
岡本 貴美子	(〃)
中野 聖	(〃)

事務局

建設部長	笹原 敏文
都市計画課長	吉本 哲哉
都市計画課参事	河村 伸二
都市計画課計画係長	向井 克久
都市計画課計画係	須田 明彦

4. 議事

議案第1号	会長の互選について
報告第1号	帯広圏都市計画区域の「整備、開発及び保全の方針」(第2回見直し)及び「区域区分」の第7回定時見直しについて
報告第2号	幕別町都市計画マスタープランの見直しについて
報告第3号	幕別町緑の基本計画の見直しについて

5. その他

6. 議事概要 次のとおり

笹原部長 只今より令和元年度第1回幕別町都市計画審議会を開催致します。
初めに、飯田町長よりご挨拶を申し上げます。

飯田町長 開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。
ただいま委嘱状を交付させていただきました。基本的には2年間ということになります。どうぞよろしくお願いを致したいというふうに思います。
本町の人口も平成26年の4月をピークに、現在ではもう千人以上が減少しているということになります。もちろん農村部も減っているわけでありまして、市街地についても空き家が目立ち始めてきている状況になるわけでありまして、今後の課題としては、いかにコンパクト化にかかってくるかといったことが、都市計画の面でも課題になってくるかというふうに思います。そういったことを含めまして、本町のあるべき都市計画につきまして、皆さん方のご意見、ご提案を頂ければありがたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

笹原部長 それでは、新しく委員さんになられた方もいらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと思います。小島委員の方から順にお願いします。

小島委員 町議会議員の小島と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

小川委員 同じく町議会議員の西猿別に住んでる小川純文と申します。よろしくお願い致します。

嶽山委員 札内北町の嶽山です。よろしくお願い致します。

土谷委員 札内みずほ町の土谷と申します。どうぞよろしくお願い致します。

小林委員 札内若草町に住んでおります小林美裕と申します。よろしくお願い致します。

岡本委員 札内桂町におります岡本です。よろしくお願い致します。

笹原委員 錦町で建築設備業を営んでおります笹原早苗と申します。よろしくお願い致します。

岡本委員 札内暁町に住んでる岡本です。どうぞよろしくお願い致します。

中野委員 旭町の介護施設で働いております中野聖と申します。よろしくお願い致します。

谷内委員 幕別町農業委員会の会長をしております谷口です。よろしくお願い致します。

笹原部長 ありがとうございます。今自己紹介いただいた皆様は、それぞれのお手元の議案の1ページに幕別町都市計画審議会の委員として名簿を載せています。委員の構成としましては、学識経験のある方4名、町議会の議員2名、農業委員会の会長、そして公募による方3名ということになります。みなさまには、今後任期満了までの期間、都市計画行政にお力添えをいただくこととなりますので今後ともよろしくお願い致します。

次に事務局の紹介をさせていただきたいと思えます。

最初に私、建設部長の笹原です。よろしくお願い致します。

吉本課長 都市計画課長の吉本です。よろしくお願い致します。

河村参事 都市計画課参事の河村です。よろしくお願い致します。

向井係長 都市計画課計画係長の向井です。よろしくお願い致します。

須田主任 都市計画課計画係の須田です。よろしくお願い致します。

笹原部長 事務局は、ごらんの体制でございますので、今後とも、宜しくお願い申し上げます。

それでは、議事日程2の議事に入らせていただきますが、今回は、改選後初めての会議でございますので、会長が選出されるまでの間、町長が進行をさせていただきます。

町 長 よろしくお願い致します。

それでは、「議案第1号 会長の互選について」を議題といたします。事務局より説明いたします。

吉本課長 会長の互選につきましては、お手元の議案書1ページ、幕別町都市計画審議会条例第4条第1項の規定により、「会長については学識経験のある者として任命された委員の中から審議委員の互選により定める」となっておりますので、嶽山委員、土谷委員、小林委員、岡本委員の4名から選出することになります。なお、前回は、委員からの推薦によりまして決定しております。
ご審議の程よろしくお願いいたします。

町 長 ただ今、事務局から説明がありましたが、どのような方法で選出したらよろしいかお諮りいたします。

町 長 はい、土谷委員。

土谷委員 推薦という形がよろしいかと思えます。

町 長 土谷委員から推薦という意見がありましたが、推薦でよろしいでしょうか。

．．．．．(異議無し)．．．．．

町 長 異議なしとの声がありましたので、そのようさせていただきたいと思えます。
それでは、どなたかを推薦して頂きたいと思えます。

町 長 はい、土谷委員。

土谷委員 長く委員を努められ、前会長でもあった嶽山委員を推薦いたします。

町 長 今、土谷委員から嶽山委員を推薦するという声がありましたが、他に推薦はありませんでしょうか。
ございませんので、それでは嶽山委員に会長をお願いすることよろしいでしょうか。

．．．．．(異議無し)．．．．．

町 長 異議無しということで、嶽山委員が会長に決定いたしました。
ここで私の進行の役割はここまででありますので、嶽山委員には会長席に移っていただいて、以後議事進行をお願いいたします。
ありがとうございました。

笹原部長 町長におきましては公務所要のため、ここで退席させていただきます。
(町長退席)

笹原部長 それでは、嶽山会長よりご挨拶を頂きたいと思えます。

嶽山会長 一言ご挨拶を申し上げます。ご推薦を頂きましたので大役ではありますが、都市計画審議会の会長をお受けしたいと思います。再任の委員さんはもちろんのこと、この度、新しく委員になられました委員の皆様にも置かれましても、高いご見識をお持ちの方々ばかりとお聞きしております。委員の皆様方のご指導とご協力を頂き、活発な審議会を展開できますよう努力してまいりますので宜しくお願いいたします。

笹原部長 嶽山会長ありがとうございました。この後、職務代理者の指名については、審議会条例第4条第3項の規定に基づきまして、会長が指名することとなっております。

また、この先の議事の進行につきましても、会長が決定しましたので、嶽山会長にお願いしたいと思いますので、宜しくお願い致します。

嶽山会長 それでは、職務代理者の指名につきましては、会長に事故があった場合に、その職務を代行する「職務代理者」をあらかじめ会長が指名することとなっておりますことから、会長の私より職務代理者を指名させていただきます。
職務代理者につきましては、引き続き、岡本委員を指名したいと思います。
よろしくお願いいたします。

嶽山会長 これで、議案第1号「会長の互選について」を終了させていただきます。

嶽山会長 次に、報告事項に入ります前に、議事日程3、その他、説明「都市計画について」であります。報告第1号から報告第3号に関係がありますことから、報告事項に入ります前に説明を行いたい旨、先ほど、事務局より申し出がありましたので、報告第1号の前に、その他、説明を行うこととしてよろしいでしょうか。

．．．．．(異議無し)．．．．．

嶽山会長 異議無しということなので、報告第1号の前に「議事日程3その他、説明」を行うことといたします。それでは、事務局、説明をお願いします。

向井係長 はい、計画係長の向井です。
最初に本日お手元にお渡ししております資料の確認をいたしたいと思います。
「議案書」「報告第1号資料」「令和元年度第1回幕別町土地計画審議会説明資料」「幕別町都市計画データファイル2019」が事前配布させていただいたもので、本日、テーブルの上に置かせていただいていたものが、「幕別町都市計画マスタープラン」「緑基本計画」「都市計画図2万5千分の1」「都市計画図1万分の1」であります。不足している物はありませんか。
それでは、その他の「都市計画について」の説明させていただきます。
資料は「令和元年度第1回幕別町土地計画審議会説明資料」、こちらをご覧ください。最初のページが本資料の目次であります。
次に、資料1の「委員名簿」であります。こちらは、本日お集まりいただいた審議委員の皆さんの名簿であります。
次に、資料2に「都市計画審議会について」説明させていただきます。
都市計画審議会は、都市計画法に基づき、都市計画に関する事項を調査審議するために設置された附属機関であります。
都市計画審議会には、いくつかの権限があります。一つ目には、都市計画法によりその権限に属された事項を調査審議することで、市町村が決定する案件に対して調査審議していくということでもあります。
二つ目が市町村長の諮問に応じ、都市計画に関する事項を調査審議することでもあります。
それから三つ目が都市計画に関する事項について、関係行政機関へ意見を述べることができるという、三つの権限があります。
2ページをご覧ください。審議会の組織及び運営に関しましては、政令に基づき条例で定めております。3ページにはその審議会条例を載せておりますが、学識経験のある者が4名、町議会の議員が2名、農業委員会会長が1名、それから公募による者が3名の合計10名で構成しております。
4ページに、その他ということで、審議の非公開についてであります。審議会は、基本的には通常公開で行っておりますが、議事を公開するか非公開とするかは審議会の判断に属するものであるということでもあります。議事録の取り扱いについても同様であります。

二つ目といたしまして、委員の代理であります、代理出席は通常認められないということでもあります。ただし、関係行政機関の職員が委員になっている場合、充て職のような場合に関しましては、代理出席を拒否するべき理由はありませんので、代理出席は可能であるということでもあります、幕別町の審議会では、基本的に代理出席は無いと考えております。

次に資料3「都市計画の決定権者」についてであります。

都市計画の決定は、市町村と北海道が決定することになっておりまして、市町村が決定するもの、あと北海道が決定するものについてそれぞれ丸をつけて表示しております。

審議会の審議するものに関しましては、あくまで市町村が決定する案件について審議するというものであります。北海道が決定する案件につきましては、幕別町から北海道に案を提出する必要がありますので、その段階で協議していただいて、意見を聞くことで進めております。

都市計画決定する案件につきましては、あくまでも市町村の案件について諮問答申していくこととなります。

次に、資料4の「都市計画について」の説明をさせていただきます。

1枚めくっていただき、2ページをご覧ください。

まず、1都市計画と都市計画法ということで、都市計画とは、まちづくりの基本的な構想に基づき、土地利用、都市施設、面的整備などの計画を総合的・一般的に定めるものであり、都市計画法は、都市計画の各種制度や基本的な土地利用規制について定めている法律であります。

都市計画法第2条では、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を確保するため、適正な制限のもとに土地の合理的な利用を図ることを基本理念としております。

都市計画の概要といたしましては、2ページの中段から下に掲載のとおりとなっております。

次に、3ページになります。2都市計画区域についてであります、都市計画区域とは、都市計画法の規制を受ける土地の範囲のことありまして、国土交通大臣の同意を受けて知事が決定するものであります。

平成12年の都市計画法の改正により、都市計画区域の外側におきましても、都市計画法の規制を受けることになりましたが、基本的には区域内が適用を受けるということになります。

中段に載っているのが概念図です。幕別町は左側の線引き都市になります。一番外枠に行政区域があり、その中に都市計画区域、更にその内側に市街化区域が設定されておりまして、都市計画区域内の市街化区域以外の部分を市街化調整区域と言いまして、市街化を抑制する区域となり、建築物の建築が厳しく規制される区域となっております。

ここでお配りした2万5千分の1の都市計画図をご覧頂きたいと思っております。外側に黒い点線で表示されているものが、都市計画区域の線になります。行政区域の中の、幕別・札内市街とその周辺の相川、千住、明野や途別などが都市計画区域に入っております。

このうち、都市計画区域の中で白い部分と色が塗られている部分がございますが、色の塗られている部分が市街化区域でありまして、白い部分が市街化調整区域となっております。

なお、幕別町の場合、近隣の帯広市、音更町、芽室町の1市3町が一つの都市として帯広圏都市計画を定めておりまして、各種の都市計画に関わる事項について圏域内で調整を図りながら進めているところであります。

次に、資料に戻っていただきまして、4ページになりますが、市街化区域と市街化調整区域についてであります。

都市計画では、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るために、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分しています。

市街化区域は、すでに市街化を形成している区域と、おおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域となりまして、これに対して市街化調整区域は市街化を抑制する区域となり、建築物の建築が厳しく規制されることとなります。

幕別町につきましては、現在の都市計画区域が8,210haございまして、その内784haが市街化区域となっております。また、平成31年3月末現在の住民登録者数によりますと、行政区域内人口が26,716人、都市計画区域内人口が23,545人で全体の約88%、市街化区域内人口が21,943人で全体の約82%の方々がお住まいになっているという状況にあります。

次に、5ページの「都市計画マスタープラン」についてであります。

都市計画マスタープランは、都道府県が定める整備、開発及び保全の方針と、市町村の都市計画に関する基本的な方針とされるものがあります。

本日、報告案件で説明させていただきます報告第1号帯広圏都市計画都市計画区域の整備開発及び保全の方針及び報告第2号幕別町都市計画マスタープランが該当します。

(1) 整備開発及び保全の方針は、都市計画区域毎に北海道が定めるもので、都市計画相互間のきめ細かい調整を図り、都市計画の整合性及び一定性を確保するための、都市計画区域における基本的な方針として、都市計画の目標、市街化区域と市街化調整区域との区分の決定の有無及び当該区域区分を定めるときはその方針、土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定方針などを定めることとされています。

(2) 市町村の都市計画に関する基本的な方針についてありますが、市町村の都市計画に関する基本的な方針は、市町村の建設に関する基本構想等に即して、都市計画区域をもつすべての市町村が定めるものです。

市町村都市計画マスタープランは、市町村が、創意工夫のもとに、住民の意見を反映させて、都市づくりの理念や目指すべき都市像、地域別の整備方針、諸施設の計画等の根拠となるものでありまして、整備開発及び保全の方針は北海道が、都市計画マスタープランは幕別町が策定するものであります。

続きまして、6ページの地域地区であります。

土地をその利用目的によって区分し、都市の合理的な利用を誘導するものが地域地区の基本でございます。具体的なものといたしまして、地域地区の中で用途地域というものがございます。これは、建築物の用途や規模を規制するもので、地域地区の中で最も基本的なものです。

目的といたしましては、用途地域の適正な配置による機能的な都市活動の確保であります。用途の種類は13種類ございまして、幕別町では工業専用地域及び田園居住地域を除く11種類を決定しているところであります。規制誘導としては、建築物の用途、容積率、建ぺい率、高さなどを定めております。

用途地域の他に地域地区といたしましては、特別用途地区ということで、幕別町では、工業地域に特別用途地区を定めております。

7ページからは都市施設、市街地開発事業及び地区計画についての一般的事項について記載しておりまして、説明につきましては割愛させていただきたいと思いません。

その他、都市計画に係る基本的な事項についての説明は以上であります。

嶽山会長 只今、事務局から説明がありました、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

・・・・・・(意見無し、質問無し)・・・・・・

嶽山会長 皆さんから質問、意見もないようですので、その他、説明については終わります。

嶽山会長 それでは、報告事項に入ります。報告第1号「帯広圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針第2回定時見直し及び区域区分の第7回定時見直しについて」事務局より説明をお願いします。

向井係長 はい、計画係長の向井です。
報告第1号帯広圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針第2回見直し及び区域区分の第7回定時見直しについて説明させていただきます。

議案書2ページをお開きください。

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針は、一般的に略称で整・開・保と呼んでおります。本日の説明においても整・開・保とよばさせていただきます。

(1) 番、整・開・保の位置付けであります。

整・開・保は、都市計画法第6条の2に基づき都道府県が広域的な観点に立ち、都市計画区域毎に概ね10年後を見通した都市計画の総合的な方針であります。

略図で示させていただきましたとおり、整・開・保は北海道都市計画マスタープランと整合をはかりながら、都市計画の総合性や一体性を確保するための都市計画における基本的な方針として、都市計画の目標、区域区分の有無と決定の方針、主要な都市計画の決定方針などを定めることとされています。

また、各町ごとの都市計画マスタープランもそれぞれの町の総合計画と整合を図りながら整・開・保に即した計画とする事が必要であり、区域区分や用途地域などの土地利用や街路、公園、下水道などの都市施設に関する都市計画は整・開・保に即した計画とする必要があります。

(2) 番、帯広圏都市計画の整・開・保ですが、今日議案のほかにも、報告第1号資料として配布させていただきましたが、こちらは現在の帯広圏の整・開・保で平成32年を目標として、平成22年に決定したものです。後ほどお目通しをいただきたいと思っております。

整・開・保は北海道が決定するものですが、都市計画法では町は、都市計画の案を道に申し出ることができることとされておりますので、それぞれの町の都市計画の状況に、一番精通している地元の町が原案を策定し北海道に申し出るとしておりまして、帯広圏域でも、1市3町が共同で北海道や関係機関と協議を行いながら原案を策定してまいります。

(3) 現状と見直しの方針であります。

帯広圏においても、少子高齢化と人口減少が進むことが予想されます。さらに経済の低成長や、ひっ迫した財政状況など都市をとりまく環境が変化し、まちづくりは大きな転換期を迎えているといえます。

北海道では見直しの方針として、都市をとりまく環境の変化に対応したまちづくりを進めるため、市街地の無秩序な拡大の抑制や中心市街地への都市機能の集約などをはかり、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指すこととしており、既存の都市施設の有効活用を図りながら安全で快適な地域社会の形成を目指し見直しを行ってまいります。

見直しの流れですが、見直しにあたってはまず、都市計画法第6条に基づき北海道が実施する都市計画基礎調査や国勢調査等の資料に基づき現状の把握と目標年であります令和12年の推計を行い、令和12年の目標値の検討を行います。

その上で北海道が示している見直しの方針や、北海道の上位計画、各市や町の総合計画及び都市計画マスタープランと整合を図りながら策定を進めます。

現在は、基礎調査が終わり、1市3町共同で現状の分析と課題の整理などを行いながら素案の検討を行っております。

(4) 将来人口推計であります。

市街化区域の拡大などの主要な都市計画を定める場合、整・開・保の目標人口を根拠として行うこととなります。

将来人口の推計方法は様々な方法がありますが、今回の見直しにおいて北海道から示されているのは、国立社会保障人口問題研究所が算定している推計値を用いて

将来の推計値を積算ことになっており、帯広圏域の将来人口の推計値は圏域全体の行政区域内人口が、24万8千2百人、都市計画区域内人口が、23万6千7百人、幕別町の行政区域内人口が2万5千3百人、都市計画区域内人口を2万2千9百人と推計しています。将来推計は、帯広圏で推計した数値であり、これから北海道と協議した中で確定して行くものであります。

続きまして、4ページの2番帯広圏都市計画区域区分の定時見直しについてであります。

整・開・保や町の都市計画マスタープランに基づき定められる都市計画は土地利用、都市施設、市街化開発事業などが定められます。

そのうち土地利用に関することで、都市計画法第7条に基づき、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、市街化調整区域と、市街化区域に区分していることを区域区分といいます。

現在の区域区分は、令和2年度までの推計値に基づき定められたものであることと、区域区分は整・開・保に即していることが必要であることから、北海道では令和2年度に整・開・保と合わせて見直しを行うこととしています。

定時見直しは都市計画基礎調査に基づき将来の市街地に配置すべき人口や産業を適切に収用できる規模を検証するため概ね5年ごとに行うことになってはいますが、帯広圏域の区域区分の見直しは、昭和45年に当初決定されて以来、概ね7年ごとに行っており、今回が第7回の見直しになります。

今回の見直しにおいて、本町では、(4) 将来人口推計のとおり、減少傾向にあることから、居住系用途での市街化区域の拡大は見込めません。

また、本町においては、工業についても工業地域内に工業系用途として使用されていない未利用地が100ha以上存在しており、現状では工業系の市街化区域の拡大も見込めないのが現状であります。このことから、今回の区域区分の変更については、前回からの変更は行わない方向で進めているところであります。

前回の第6回定時見直しの時のように、市街化区域を市街化調整区域に変更する逆線引きも考えられますが、現状では、逆線引きを行う地区もないことから、逆線引きの予定もありません。

次に整開保、区域区分の見直しのスケジュールについて説明いたします。

5ページの全体スケジュールをご覧ください。

先ほども説明させていただきましたように、現在帯広圏域では都市計画基礎調査の数値により将来推計値の検討を行いながら素案の策定に向け作業を進めているところであります。

本日の審議会においては整・開・保の位置付けや見直しについて説明させていただきましたが、今後も、北海道と協議しながら、素案の作成を進めてまいります。9月中旬に本審議会で協議いただき、帯広圏として素案を北海道へ提出する方向で進めていきます。

その後、北海道において、関係機関協議を行い、原案を策定し、2月上旬に、本審議会に原案の諮問をさせていただきまして、帯広圏域として、原案を北海道に申し出るという流れで進めさせていただきます。

北海道は圏域の原案の申出があった後、道の都市計画審議会で審議し、その後、パブコメ、縦覧等を経まして、令和2年10月に決定となるスケジュールで進んでいく予定であります。

今回の見直しは現計画をベースに見直し作業を進めていくこととなりますので、後ほど、報告第1号資料として配付させていただきました、現計画をご確認いただければと思います。

報告第1号について説明は以上で終わらせていただきます。

嶽山会長

只今、事務局から説明がありました、報告第1号帯広圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針及び区域区分の第7回定時見直し及びその他都市計画について、ご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。

嶽山会長 ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

．．．．．(意見無し、質問無し)．．．．．

嶽山会長 意見、質問もないようですので、報告第1号については終わります。

嶽山会長 次に、報告第2号幕別町都市計画マスタープランの見直しについて事務局から説明をお願いします。

向井係長 次に、報告第2号、都市計画マスタープラン見直しについて説明させていただきます。

議案書6ページをお開きください。

報告第2号につきましては、都市計画マスタープランの見直しの背景等について簡単に記載しているものであります。

都市計画マスタープランは平成4年の都市計画法の改正によって創設されたもので、市町レベルにおける地域の実情や住民の声を反映した計画ということで都市計画の方針作りが法的に位置づけられました。

計画策定には、国や道の各種計画、「帯広圏都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」や町の計画を踏まえた計画とすべきとなっております。

本町につきましては、平成15年の10月に現行の都市計画マスタープランを策定しておりまして、当時は第4期幕別町総合計画に基づいて、その都市計画の分野として定められたものであります。

策定当時の状況としましては、基準年が平成12年として、平成12年の国勢調査の結果を基に、推計値の算定に使用しておりました。

当時はまだ人口も右肩上がりの時代背景にあり、人口増加を前提にした計画であったことから、それを根拠として市街化区域を拡大してきました。

18年に旧忠類村と合併いたしまして、総合計画も新たなものとして平成20年に第5期幕別町総合計画が策定されました。

同年、都市計画法を含む「まちづくり3法」が改正され、既存にあるインフラストックの有効活用と都市機能の集約促進を目指した「コンパクトなまちづくりを目指す」とした改正が行われました。

そうした影響を大きく受けまして、方針としまして、帯広圏の整備、開発及び保全の方針の第1回定時見直しが行われました。

その概要といたしましては、整開保自体が都市の将来の発展・動向・人口・産業の将来見通しを勘案し、都市の将来図を示しながら実現に向けた見通しを明らかにするものであります。報告第1号で説明させていただきましたが、整開保は、都市計画の手続きに則って、北海道が決定するものであります。

都市づくりの基本理念として4つの方針が謳われております。

1つは原則、市街地の拡大は抑制する、2つ目に都市の既存ストックの有効活用、3つ目に様々な都市機能がコンパクトに集約した都市構造、4つ目に地球環境時代に対応した低炭素型都市構造への転換となっております。

これは国の方針もありますが、前回の第6回の見直しから、考え方が大きく転換されたものであります。

また、幕別町都市計画マスタープランが、令和2年度に目標年次を迎えること、それから、令和2年に、整開保の第2回見直しが予定されていることから、踏まえるべき計画が見直されることから、今年度から2年間かけて「都市計画マスタープラン」の全体見直しを行っていくものであります。

次のページをお開きください。都市マス見直しの策定体制であります。

本審議会は、最終的にマスタープランの見直し案について、答申をいただくということになります。そこに至るまでは、庁内の策定委員会におきまして、町民の意

見を取り入れながら計画策定に向け進めていくこととなりまして、町民参画の部分といたしましては、アンケート調査、地域住民意見交換会、各種団体意見交換を実施、住民説明会、パブコメにより多くの住民の方の意見を伺いながら進めていくものであります。

参考まで、9ページには策定委員会の要綱をつけさせていただきました。策定委員会は庁内職員のみ構成となっておりますが、意見交換会等の開催により、住民からの意見をいただきながら、策定委員会の中で計画を形にし、住民説明会、パブコメにより計画案等をしめし進めていきたいと考えております。

次に、11ページの幕別町都市計画マスタープランスケジュールをご覧ください。

こちらは、今後2年間の都市マス策定のスケジュールについて示したものであります、

今年度については、計画準備・資料収集から始まりまして、7月から住民意向調査、アンケートを実施します。対象件数は、2,000件を予定しております。

策定委員会は今年度、3回程度、予定しております。

11月には地域別意見交換会として、町内4カ所で予定しており、その中で意見をいただければと考えております。

また、各種団体意見交換についても考えてはおりますが、現在、進め方等について決めかねておりますことから、予定には載せてはおりませんが、何らかの形で意見を伺っていくものであります。

今年度としては、全体構想及び地域別構想の設定まで手掛けられればと考えております。

来年度は、素案を7月中に作成し、素案をもって町内関係機関と意見交換を実施、10月に住民説明会の開催、1月パブコメを予定しておりまして、2月に本審議会へ諮問を考えておりまして、2月に決定と考えております。

報告第2号について説明は以上で終わらせていただきます。

嶽山会長 只今、事務局から説明がありました、報告第2号について、ご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。

向井係長 事務局から補足があります。

向井係長 今スケジュールを説明させていただいたんですけど、都市計画審議会について、特段どこに入ってくるというのがここには記載されておられません。というのが、都市マス自体については都市計画審議会いつやらなきゃならないということがなくて、中間の中で中間報告というかたちでみなさんにお示ししていくという流れになります。現状としては、いつやるかが不明なところがありますので、基本的には整開保区域区分のスケジュールを見ていただくと、5ページ目に整開保のスケジュールがでております。この中で令和元年の9月に素案を提出するというようなことになっております。これは素案をそのまま提出するというようになりますので、その前に都市計画審議会のみなさんにお話してからという流れになりますので、この時点で9月に審議会は予定されるというようになると思います。その中でどこまで都市マスの作業が進んでいるかわかりませんが、その中でまた中間のご報告をしたいと考えているところでもあります。そのあとといえ、令和2年に都市計画審議会として諮問というなかたちで2月上旬に今このスケジュールに入っておりますので、その次は2月になるのかなと思っています。ただ、都市マスの中で、どうしてもみなさんにご報告したいという案件が出てきた場合には、それだけでみなさんにお集まりいただくこともあるかもしれませんが、一応、今のところ整開保と区域区分の変更なんかスケジュールの中で予定されている審議会の中で中間報告をしていきたいと考えてございます。以上です。

嶽山会長 9月上旬に協議をして、来年の2月に諮問する。そういうことですね。

向井係長 はい。

嶽山会長 そういふことですので、みなさんのほうから何か、ご意見、ご質問ありましたらお受けしたいと思います。

はい、どうぞ、岡本委員。

岡本委員 たぶん、緑の基本計画のスケジュールと絡むんですけれども、都市計画審議会の係り方だと思うんですよね。今ご説明あったのが、整開保の出す段階9月と、令和2年の2月、最終的な諮問答申というお話だったんですけれども、都市計画審議会何をやるのよといったときに、いろんな案件を審議して諮問答申するという部分ですから、都市マス、緑の基本計画の流れの核となる時期ってあると思うんですよね。いろんな課題を整理してずっと作ってって、緑のマスタープランの個別の部分じゃなくて、全体像をどうつくろうかっていうのがまず決まると思いますよ。それから個別の案件を全部やってくと思うんですけれども、その全体像が見える段階で、見えても少し進んだ段階で緑のマスタープラン、緑の計画こういう形の流れで全部進みますよと、詳細についてはまた別途審議してもらいますというような形で、できれば今年の9月の都計審から2月まで飛ぶんじゃなくて中間点、その計画つくりの本当のそこ、素案ができますので、素案の後か前かっていうのはちょっとわかりませんが、本来であればその段階で一度投げ込みをしていただいたほうがいいのかなと個人的には思います。ただ、素案をいろんな関係各課の仕事とか、スケジュールいっぱいありますから、ただあっちこっち説明すればいいっていう予定ではないと思いますが、都市マス計画については都市計画審議会の最重要事項になりますので、やはりもうちょっと重要な時期に投げ込みをお願いしたいなというふうに思います。

吉本課長 委員おっしゃるとおり、こちらのほうにつきましては協議になりますので、審議会のみなさまには十分ご説明してご意見うかがって作成していくことだと思います。今直近で、たまたまスケジュールとして集まっていたべき時期が示されたのが整開保のパターンだったと、これで説明させていただいたんですけど、当然この間ででもタイミングがずれながらも重要な時期がきましたら、それにつきましてまたご案内させていただいて、みなさんにご説明のうえ、ご意見をいただいて進めていこうというふうに考えておりますのでご理解いただければと思います。

嶽山会長 ということは、9月の予定をそれぞれの流れで、前後で判断するということですね。

吉本課長 とりあえず9月と2月につきましては整開保で集まっていたということで、それは決まっているんですけど、その前後で多少ずれたりしても、重要な町の計画について固まってきた状態であれば、再度お集まりいただいてってことも考えてますので、それでご理解いただきたいと思います。

嶽山会長 ほかにどなたかいらっしゃいませんか。
小川委員どうぞ。

小川委員 都市計画については、いままでは経済成長、人口成長の増ということで、ずっと増加増加という路線できたんですよね。ここにきて十勝圏含めても人口の減ということで、一つの立ち止まって見直す、また今回32年度改正年ということで、令和2年ですか、改正年ということですから、本当に大きな今までの都市計画の道筋が大きく変化される今回は、はじめの時期にきているんじゃないかなという気がするわけでありまして。ですから、例年どおりの形ではなくて、街づくり、都市構造が本当に変化してくるところを、いかにみなさんに理解をしてもらって進めていかない

と審議会のかたちっていう、そこが一番これから重要なところになってくるんじゃないかなど。今までの経済成長というものとは完全に時代が変わってという中で今回見直しで、見直し計画の策定のちょうど仕切りのところがきておりますので、そういうところでもできればご検討をしながらこの審議会での検討、課題をあげていただければ、前よりいいんじゃないかなというふうに感じるところであります。以上です。

嶽山会長 はい、事務局。

吉本課長 整開保、区域区分にあたり、これが進んできますとデータの部分で、町の今後の様子とかそのへんも出てきますので、そのへんにつきましてもまた折を見て情報提供をしていきたいと思えます。その中でみなさんのご意見をうかがったり、今後のあり方についてご意見をうかがったり、考えていくって部分が出てくるかと思えますので、またその節にはよろしくお願ひしたいと思えます。

嶽山会長 よろしいですか。ありがとうございます。
みなさんのほうからご意見、ご質問、希望などありましたら、なんでも結構ですので遠慮なく意見を述べていただきたいと思います。

．．．．．(意見無し、質問無し)．．．．．

嶽山会長 ほかに質問がないようですので、報告第2号について終わらせていただきます。
次に、報告第3号幕別町緑の基本計画の見直しについて事務局から説明をお願いします。

向井係長 報告第3号、「幕別町緑の基本計画の見直しについて」説明させていただきます。
議案書12ページになります。

緑の基本計画は、町の緑に関するマスタープランと言うものであります。

現計画は、平成16年3月に策定したものでありまして、当時の背景といたしまして、大きく4つの事項がございました。

法律的には、都市緑地保全法と言う根拠法令がありまして、この法律の中で緑の基本計画を策定すると言うのが謳われております。

これは、市町村の区域内の主に都市計画区域内についての緑地の適正な保全とか、緑化の推進に関する内容を記載すると言ったものを緑の基本計画と言っておりました。

同時期に町には当時、帯広圏の緑のマスタープランと言うのがございまして、これは都市計画に関する主な事項を記したものでございまして、帯広、音更、芽室の1市3町の共同で策定したものでございました。

もう一つが、都市緑化推進計画というのがございまして、これは都市緑化を図ることを目的としていまして、公共公益施設とか民有地の緑化、保全を進めるための計画であり、昭和60年当時の建設省が、各自治体に策定を要請していたものでありましたが、本町では策定はしていなかったものであります。

4番目として、地域緑化推進計画というものがございました。これは北海道自然環境等保全条例に基づく計画であり、幕別町では、昭和49年から5期に渡りまして策定をしておりました。

これが町全体に関する計画として、いずれも緑に関する保全や緑化の推進に関する内容となっております、類似したものであります。

本来の緑の基本計画自体は都市計画区域内を主に対象としていまして、一方で、④の地域緑化推進計画につきましても、町全体を対象としたものとしていまして、その対象範囲に若干重複や差異があったことから、この現行の幕別町緑の基本計画を策定する際に、これら4つの各種計画を包括した総合的な計画として、一本化したものを策定したものであります。

従いまして、法律的なものを言いますと、主に都市計画区域内についての計画でありましたけれども、本町の緑の基本計画につきましても、幕別町全域を対象として策定をしたといったものであります。

次に（２）番目として、現行の緑の基本計画の主な施策であります。

基本方針として、緑を守る、緑を増やす、緑を育むという３つの基本方針を掲げておりました。②番として具体的な施策の取り組みでありますけれども、緑を守るという部分でいきますと、河川管理者と連携しながら自然などを保全するというところで、クリーンウォークを実施するですとか、協働のまちづくり支援事業に取り組んでいるということですので。

あと、緑を増やすという内容でいきますと、公園の整備、札内西公園を始めとした公園整備を進めてきました。あと緑を育むという点におきましては、行政と住民が共に緑についての緑づくりを進めていこうと言うものでありまして、具体的には、公園整備に関する計画段階からの住民参加ということで、札内西公園においては、地域の住民を中心としてワークショップをつくりまして、計画の内容について議論をしていただき、公園整備にあたったということがありまして、そういった取り組みを実施してきたところであります。

③番目といたしまして、札内西緑化重点地区の取り組みということで、これは図に示している太線の範囲内が、札内西緑化重点地区としまして、北栄地区とその周辺を含む一帯を選定いたしまして、整備を進めてきたものであります。

これにつきましては、公園・緑地を核といたしまして、それらを結ぶ道路の緑化を推進することによりまして、緑化を創出するといった目的で設定をしたものであります。道路につきましては、この地区内、北栄大通ですとか、北栄西通の道路整備に併せて街路樹を整備したりですとか、公園・緑地につきましては、札内西公園等々の整備をしたといったものであります。

次に（３）番目といたしまして、今回の緑の基本計画の見直しの背景であります。平成15年10月に策定し、平成24年3月に見直しを行った「幕別町緑の基本計画」が目標年度を迎えることや、少子高齢化、地球規模の環境問題の対応が求められていること。更には、関連法の改正として「都市緑地法の一部改正」により、緑の基本計画の記載事項に公園の「管理」の方針を新たに追加し、都市公園の老朽化対策等の計画的な管理を推進することが取り入れられたことがあります。

また、現状の把握ということで、町の緑に関するデータの整理、公園整備の進捗状況、住民の意識の変化について今一度把握をしたいといったことがあります。

こうしたことを踏まえまして、現状と課題を再度検証いたしまして、緑の保全及び緑地の推進の総合的な方針として改訂を行うというものであります。

次に、15ページの幕別町緑の基本計画策定スケジュールをご覧ください。

こちらは、今後2年間の緑マス策定のスケジュールについて示したものであります。

今年度については、ここには記載されておりませんが、都市マスに含めて緑マスのアンケートも実施することで作業を進めております。

基本的には都市マスと同様に、各種計画に整合を図りながら策定していくこととなりますことから、都市マスの進捗によっては、緑マスについてもスケジュールが変更されていくこともあります。

また、都市マスにおいて実施する、地域別意見交換会だとか、各種団体意見交換などの地域住民の意見を踏まえながら、計画を作っていくこととなります。

本審議会には、都市マス同様、2月に諮問を予定しております。先ほど説明したとおり、9月と来年2月で決まったところはありますが、そのほかに重要なことがありますら、都市計画審議会の中で報告していきたいと考えております。

報告第3号について説明は以上で終わらせていただきます。

嶽山会長

只今、事務局から説明がありました、報告第3号について、ご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。

・・・・・・(意見無し、質問無し)・・・・・・

嶽山会長 意見、質問もないようですので、報告第3号については終わります。

嶽山会長 それでは、議事日程3の「その他」について、何かありますか。

向井係長 ありません。

嶽山会長 それでは、全体を通して何かご質問がありましたらお受けいたします。
はい、どうぞ。

小林委員 冒頭の町長の挨拶の中にもあったんですけど、全体的に空き家が増えてきて非常にその点について地域住民もかなり苦慮してるんじゃないかなと思います。今現在、幕別町で空き家対策についてどの程度まで進んでいるのか、どういったことが考えられているのかというのを、今現在の段階でお話聞かせていただける範囲内で結構です。お聞かせいただければと思います。

嶽山会長 事務局。

吉本課長 空き家ということですが、数字とか厳密におさえていないんですが、町のほうといたしましては空き家・空き地バンク、こちらのほうを進めておりまして、空き家になった方の所有者と交渉いたしまして、北海道のホームページにありますけれど、それを紹介して空き家バンクのほうに登録を進めているというふうになっております。
私の情報としてはその程度です。

小林委員 今の登録という話、わたしも広報で知っていたんですけども、実際今現在町が得られている登録の方法というか、それはどういったかたちでやられているんでしょうか。

吉本課長 担当部局ではないのであれなんですけど、わたしが聞いている範囲では、あくまでも最終的には持ち主の方が登録したいとか、しますということで、最終的には登録になっているというふうにかがっています。その間には担当職員がお話させていただいたり、制度の説明を行い進めているとうかがっています。

笹原部長 補足しますと、不動産会社が間に入って、売りたいとする個人の方と選任媒介契約というのをいたしまして、それを了解の上で空き家・空き地バンクのほうに登録をしていただくと。そうすることで広く、町のホームページを使いながら、情報提供につなげていくというやり方になっているかというふうに思います。成約等につなげた実数まではおさえておりませんが、結果として成約された場合には、更には、こういった政策とは別に、町内業者を使って家を建てられる場合にあつては、また別の政策の補助なりの、商品券の交付でしょうかね、そして提供があるですとか、そうしたものを組み合わせながら、結果としてなんですけれども、空き地、空き家の改修をつなげていくというようなことをやっております。最終的には、町長も申し上げておりましたけれども、人口減少対策、ここに如何につなげていくのかというようなことになるかなど、そういう考えのもと取り組みを進めている状況になっています。

嶽山会長 ほかにみなさんのほうからなんでも結構ですので、ご意見、ご質問等ありましたらお受けしたいと思います。

・・・・・・・・(意見無し、質問無し)・・・・・・・・

嶽山会長 その他、ご意見、ご質問も無いようですので、本日の議事を終了いたします。
 以上を持ちまして令和元年度第1回幕別町都市計画審議会を閉会いたします。

笹原部長 ご起立願います。ご苦勞様でした。